

# 南滿州鐵道

170781097 三輪政宗



# 1) 国策会社満鉄の誕生

a)1905年：ポーツマス条約により、  
ロシア、東清鉄道を日本へ譲渡

→日本、ロシア南下阻止の  
役割のみ認識

## b)戦争の副産物

ア)経済財政的観点→利益なし

→倉知鉄吉「取っても損になると謂う  
計算しか出ない」

イ) 政治的視点→ロシアから獲得した果  
実

→その他の効用：日本政府不理解

↓結果

満鉄の設立、見切り発車

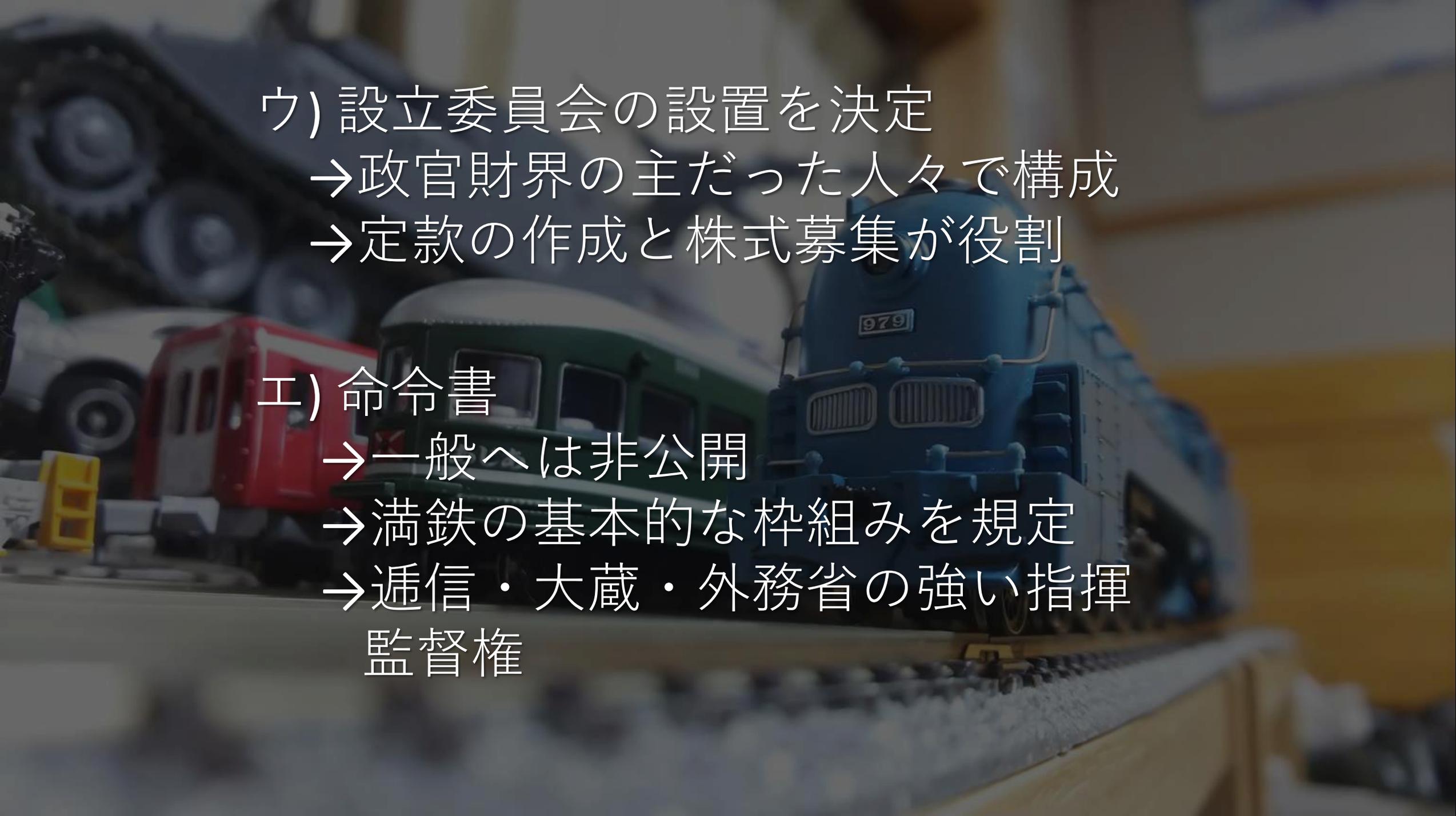
### c)基本方針

ア)勅令「南満州鉄道株式会社設立に関する件」

→1906年6月7日公布

イ) 総裁と副総裁は政府が任命

→株式会社でありながら政府機関



ウ) 設立委員会の設置を決定

→ 政官財界の主だった人々で構成

→ 定款の作成と株式募集が役割

エ) 命令書

→ 一般へは非公開

→ 満鉄の基本的な枠組みを規定

→ 逋信・大蔵・外務省の強い指揮

監督権

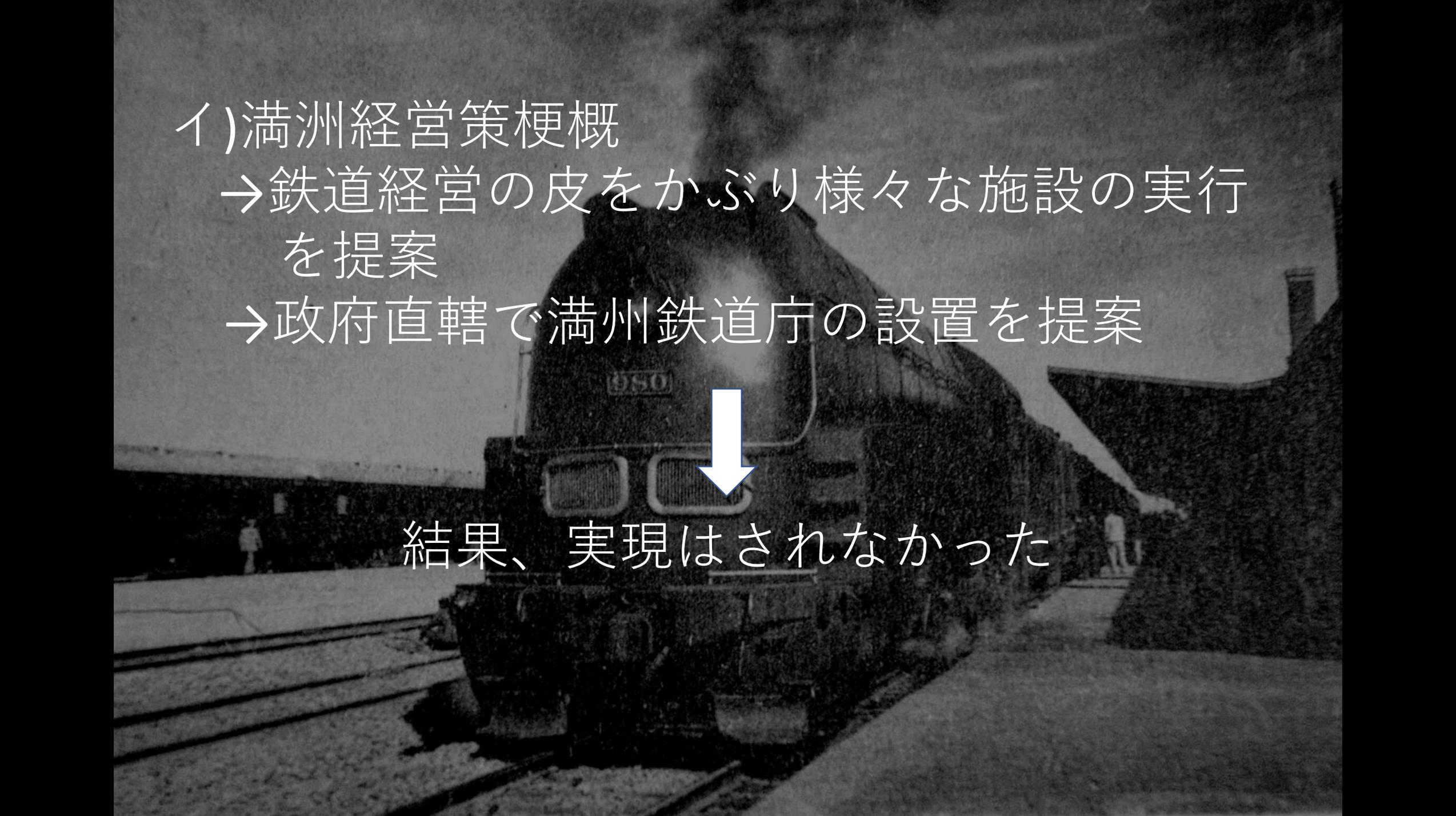
## d) 人材

ア)初代総裁：後藤新平(1960年  
11月13日任命)

→児玉源太郎が抜擢

→日露開戦時より、満州に東イン  
ド会社をモデルにした会社の設置  
(満洲経営策梗概) を児玉に提案





イ) 満洲経営策梗概

→ 鉄道経営の皮をかぶり様々な施設の実行を提案

→ 政府直轄で満州鉄道庁の設置を提案

結果、実現はされなかった

## e) 南満州鉄道発足

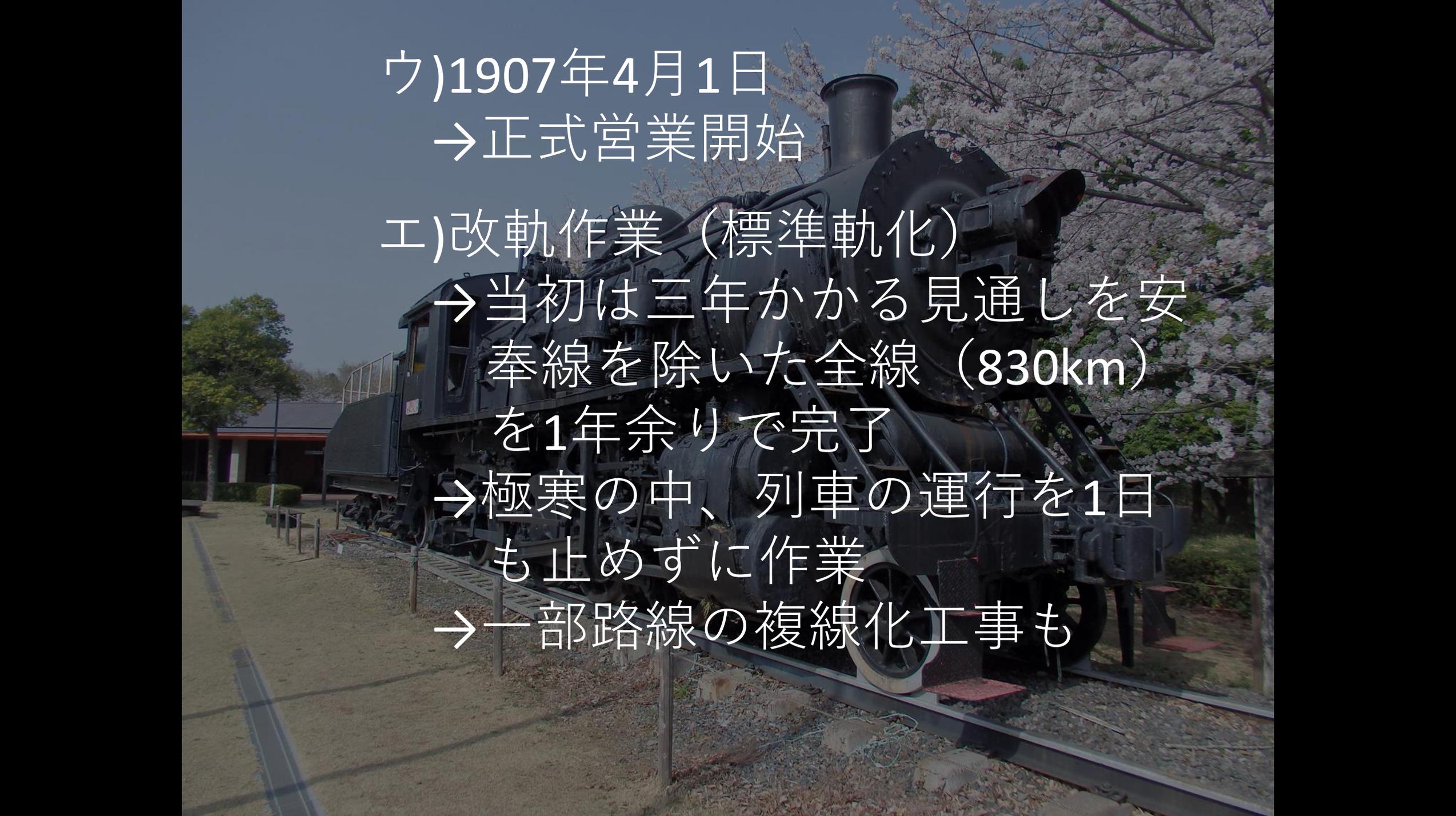
ア)1960年11月26日に創立総会

→東京神田町基督教青年会館にて

イ)重役や社員

→後藤がスカウトした40代30代の働き盛りの人たち

→中には、月給が半分になっても台湾からきた役人や高学歴で国家公務員試験を合格したのにもかかわらず入社した学生も

A black steam locomotive is positioned on a set of railway tracks. The locomotive is the central focus, with its large wheels and boiler clearly visible. In the background, there are trees with light pink cherry blossoms, suggesting a spring setting. The sky is a clear, pale blue. The overall scene is well-lit, with soft shadows on the ground.

ウ)1907年4月1日  
→正式営業開始

エ)改軌作業（標準軌化）

→当初は三年かかる見通しを安  
奉線を除いた全線（830km）

を1年余りで完了

→極寒の中、列車の運行を1日  
も止めずに作業

→一部路線の複線化工事も



オ) 撫順炭鉱の拡大  
カ) 大連港の拡張  
→大連の都市開発も

## f) 南満州鉄道の 業務内容

---

- ア) 撫順炭鉱経営
- イ) 大連市街地整備
  - 水道、学校、病院の整備
- ウ) ホテル経営
  - 大連と奉天
- エ) 調査部 (シンクタンク)

etc...



## g) 英米進出の動き

i) アメリカ出資の満洲銀行設立を提議

→清国側に

→奉天総領事ストレートによる

ii) イギリスのボーリング商会

→満鉄並行路線を計画

(実際に奉天省と借款予備契約締結)



# 日露緊密化

## 2) ロシア革命の影響

### a) 第四回日露協約

→1916年7月3日締結

→極東における日ロ共同戦線を確認



事実上の日ロ同盟

### b) 東支鉄道(東清鉄道)南部線譲渡

ア) 東部戦線で帝政ロシア派劣勢

→日本へ武器弾薬の支援を要請

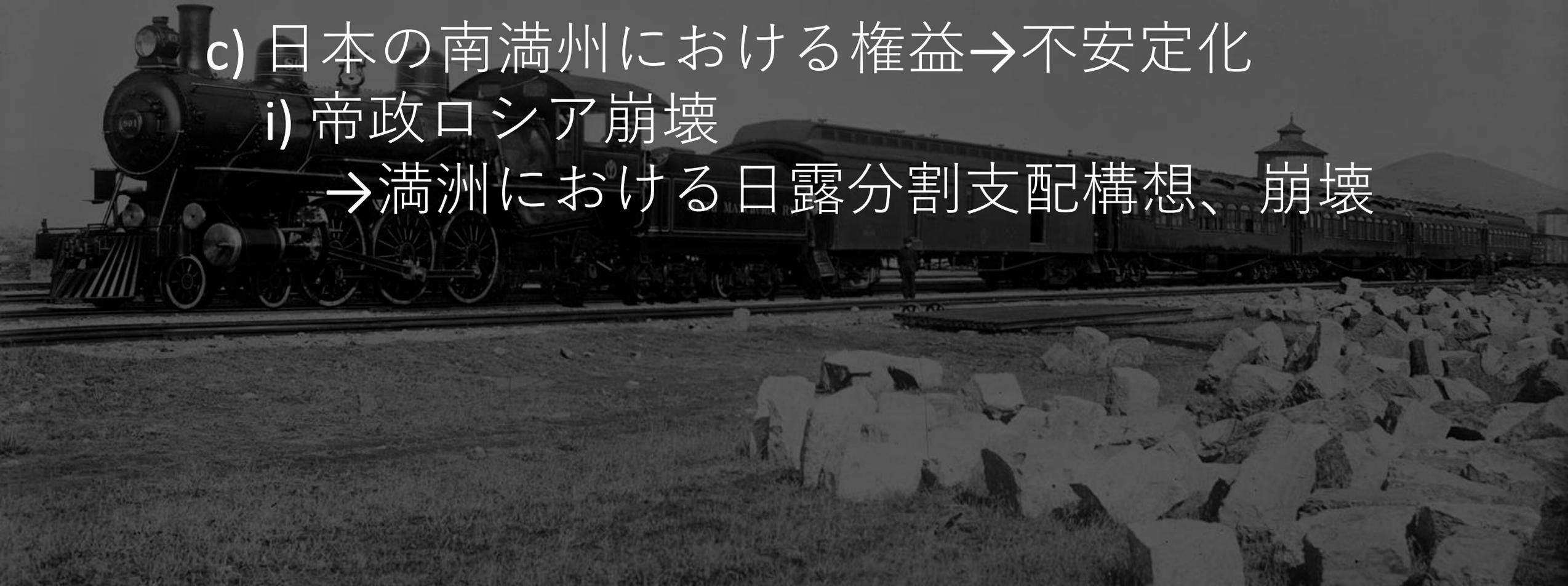
→日本、見返りとして要求

イ) 1917年11月22日譲渡取り決め  
→ボリシェビキの武装蜂起により空文化

c) 日本の南満州における権益→不安定化

i) 帝政ロシア崩壊

→満洲における日露分割支配構想、崩壊



### 3) 張作霖爆殺

#### a) はじめ

ア) 満鉄・日本国政府は利用しつつ権益を拡大  
→積極的に張作霖を支援

#### b) 張作霖の政治権力強大化

→中国ナショナリズム昂揚

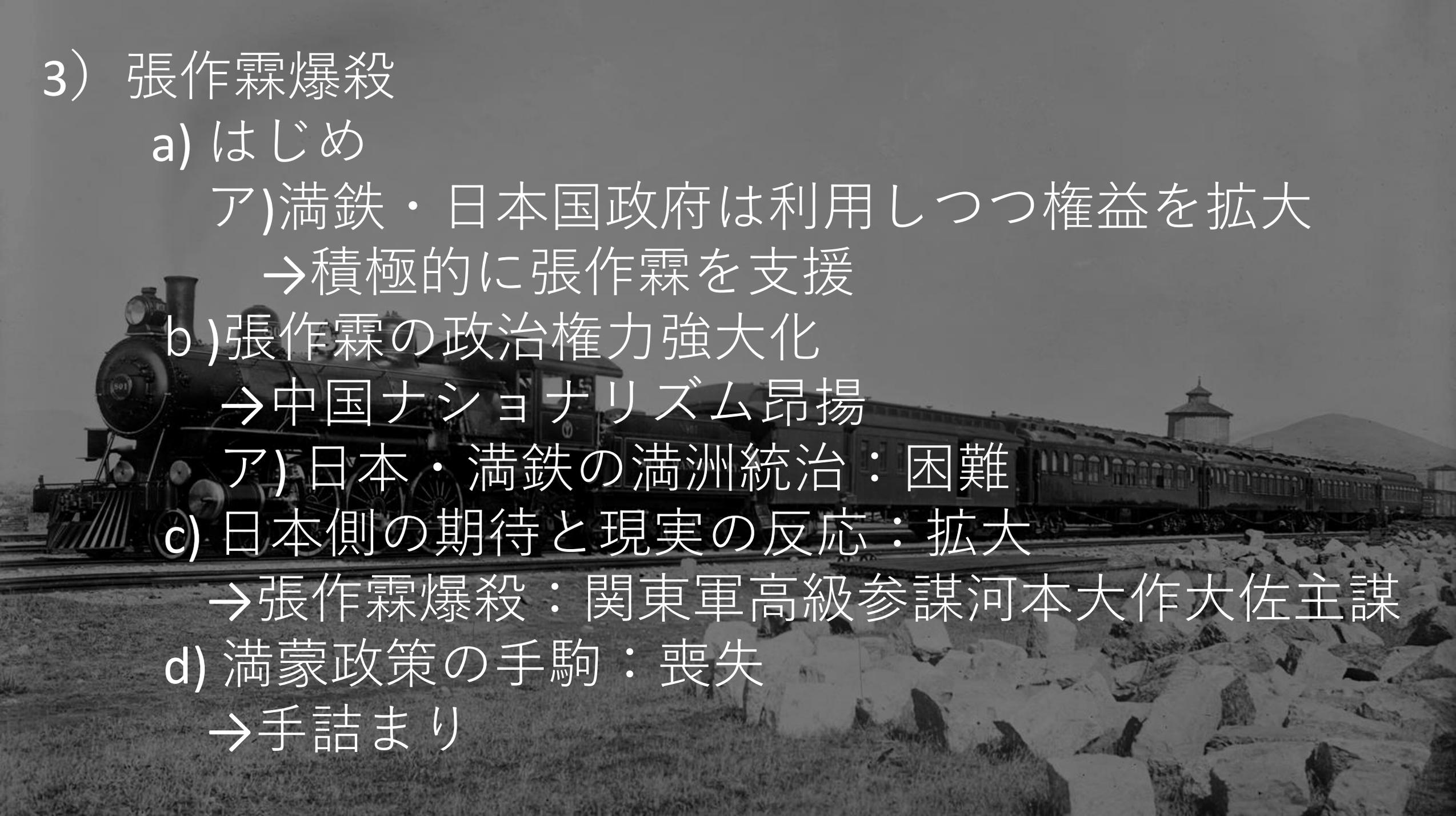
ア) 日本・満鉄の満洲統治：困難

#### c) 日本側の期待と現実の反応：拡大

→張作霖爆殺：関東軍高級参謀河本大作大佐主謀

#### d) 満蒙政策の手駒：喪失

→手詰まり



## 4) 満州事変

### a) おこり

ア) 柳条湖付近で満鉄本線爆破

→ 関東軍の自作自演

イ) 関東軍、張学良に濡れ衣

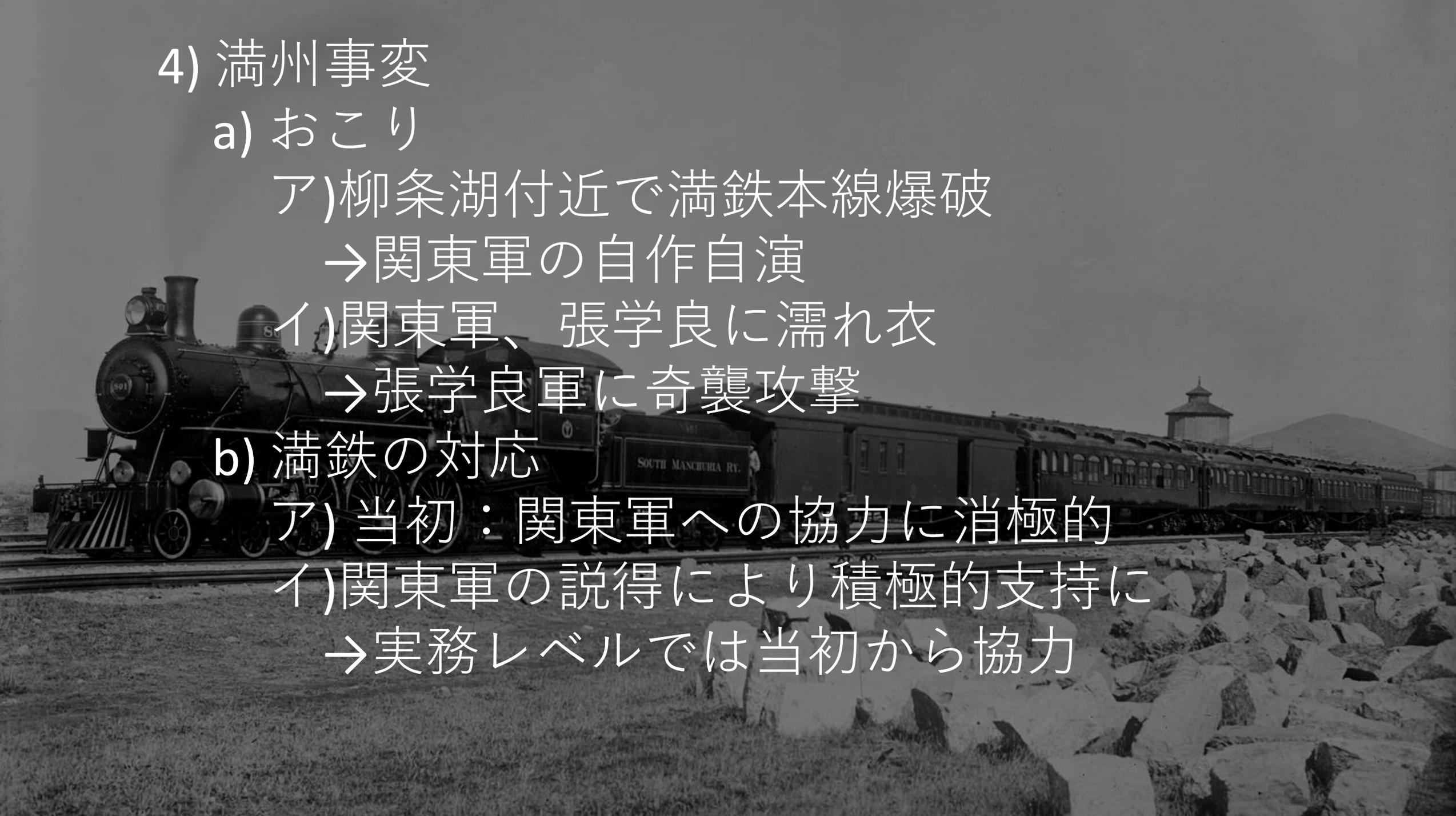
→ 張学良軍に奇襲攻撃

### b) 満鉄の対応

ア) 当初：関東軍への協力に消極的

イ) 関東軍の説得により積極的支持に

→ 実務レベルでは当初から協力



## 5) 満州国誕生

ア) 満鉄、鉄道路線飛躍的拡大

→ 鉄道会社として絶頂期

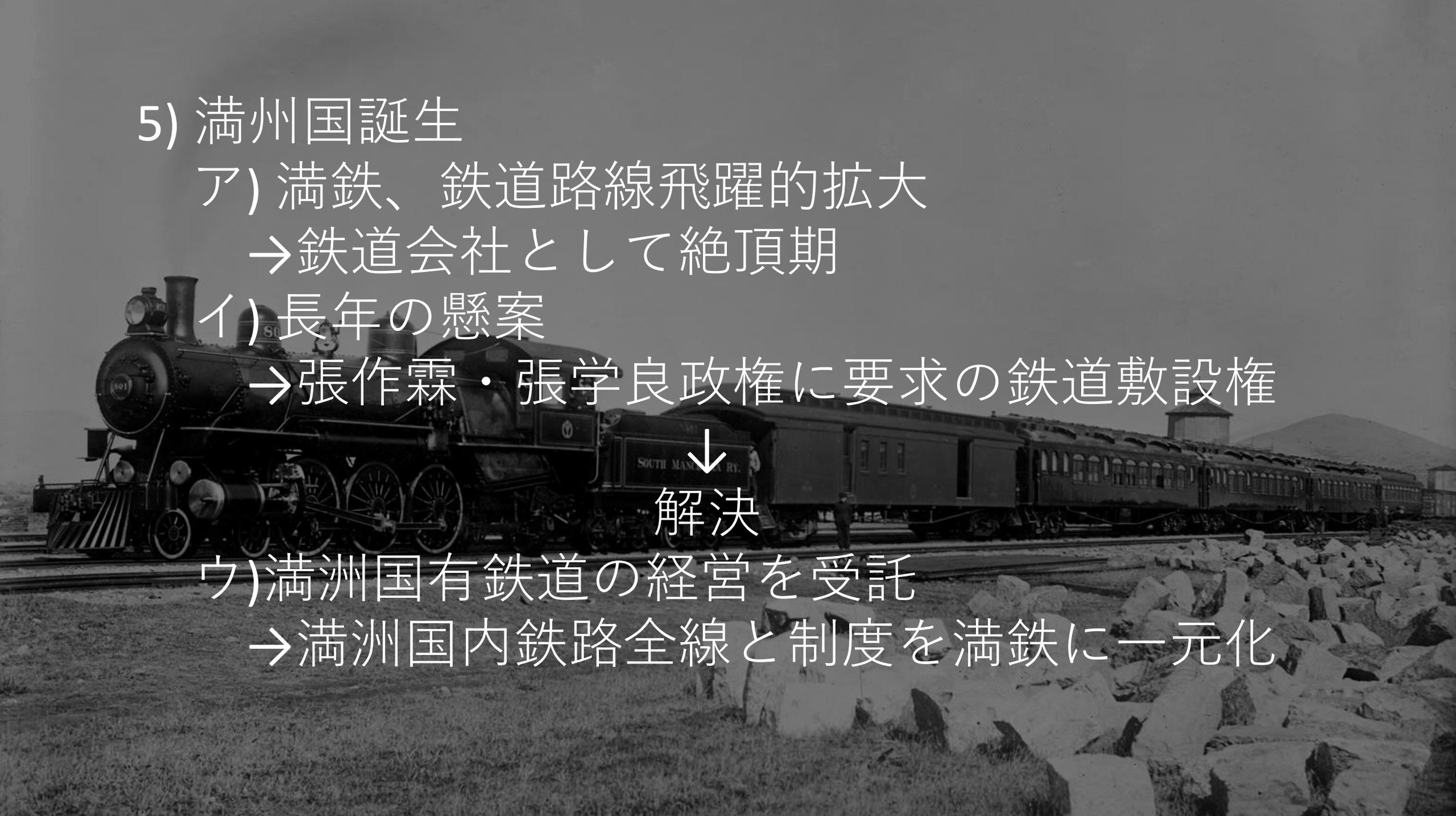
イ) 長年の懸案

→ 張作霖・張学良政権に要求の鉄道敷設権

↓  
解決

ウ) 満洲国有鉄道の経営を受託

→ 満洲国内鉄路全線と制度を満鉄に一元化



## 6) 満鉄の終焉

a) ソ連侵攻：満鉄、臨戦態勢へ移行

→満鉄、新京からの避難民輸送を担当

b) 満鉄の戦後処理・解散

ア) 事業工事中止、労務者帰還

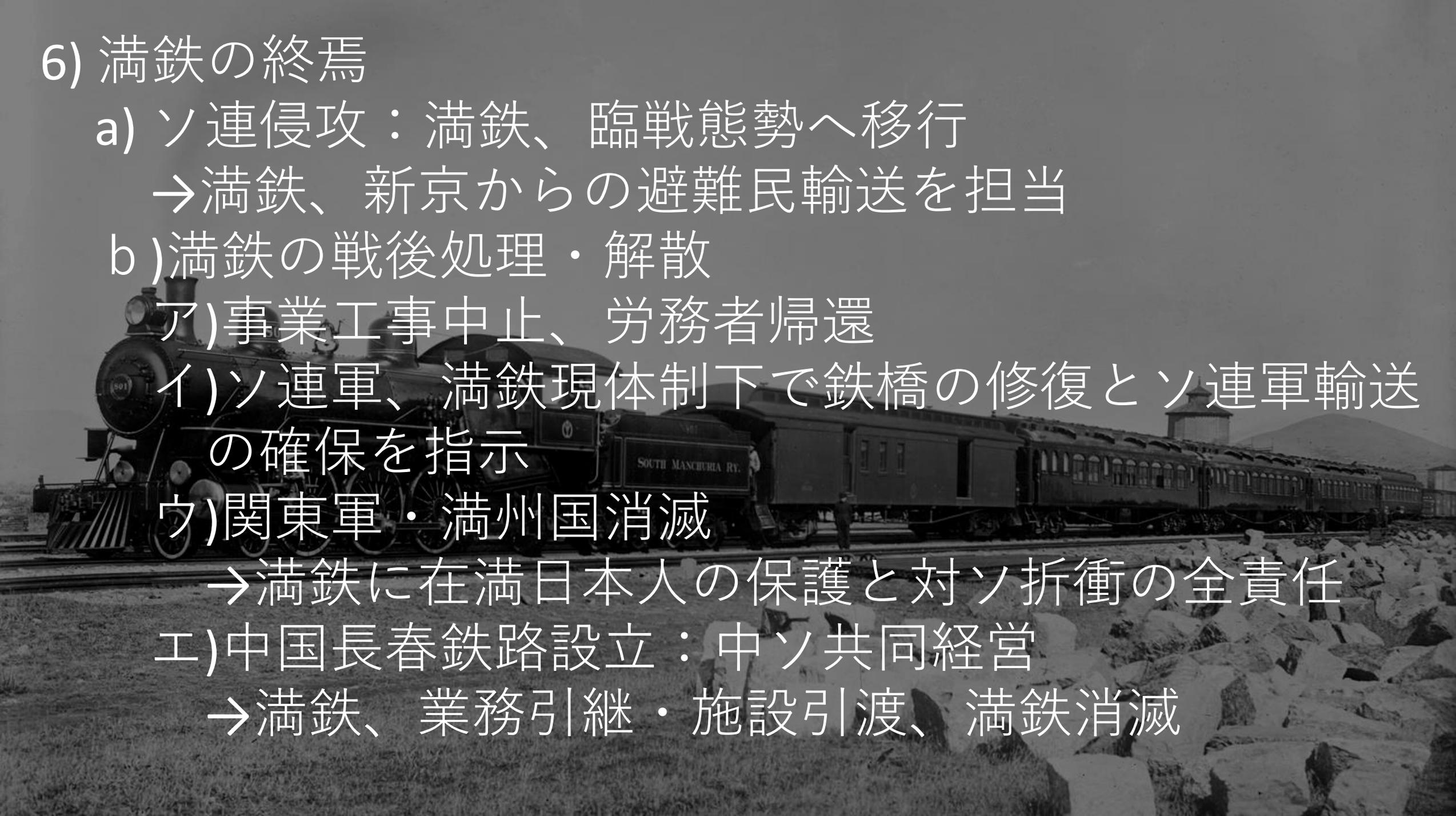
イ) ソ連軍、満鉄現体制下で鉄橋の修復とソ連軍輸送の確保を指示

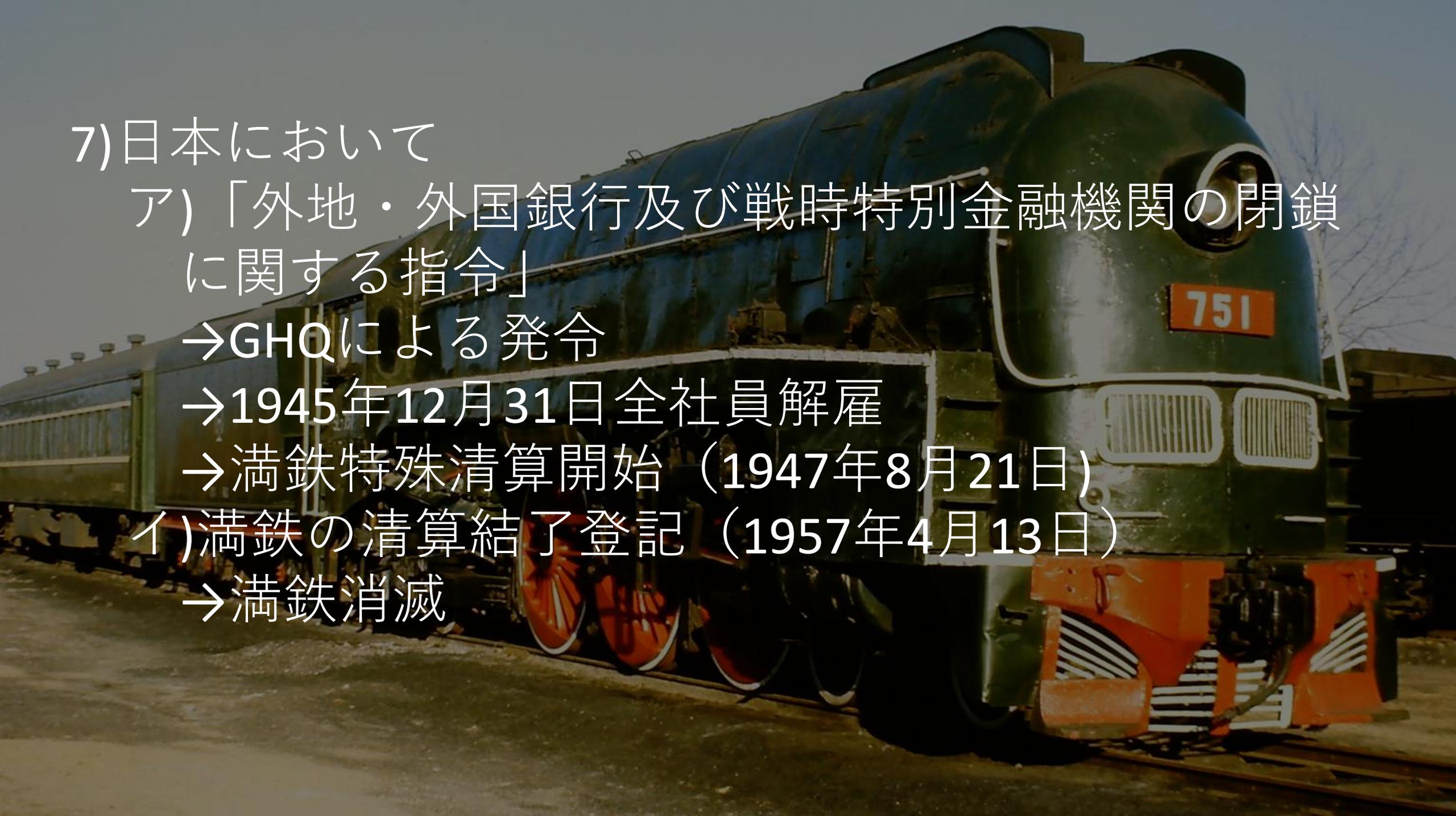
ウ) 関東軍・満州国消滅

→満鉄に在満日本人の保護と対ソ折衝の全責任

エ) 中国長春鉄路設立：中ソ共同経営

→満鉄、業務引継・施設引渡、満鉄消滅





7)日本において

ア)「外地・外国銀行及び戦時特別金融機関の閉鎖に関する指令」

→GHQによる発令

→1945年12月31日全社員解雇

→満鉄特殊清算開始（1947年8月21日）

イ)満鉄の清算終了登記（1957年4月13日）

→満鉄消滅

## 8) 満鉄消滅後

### i) 中国長春鉄路

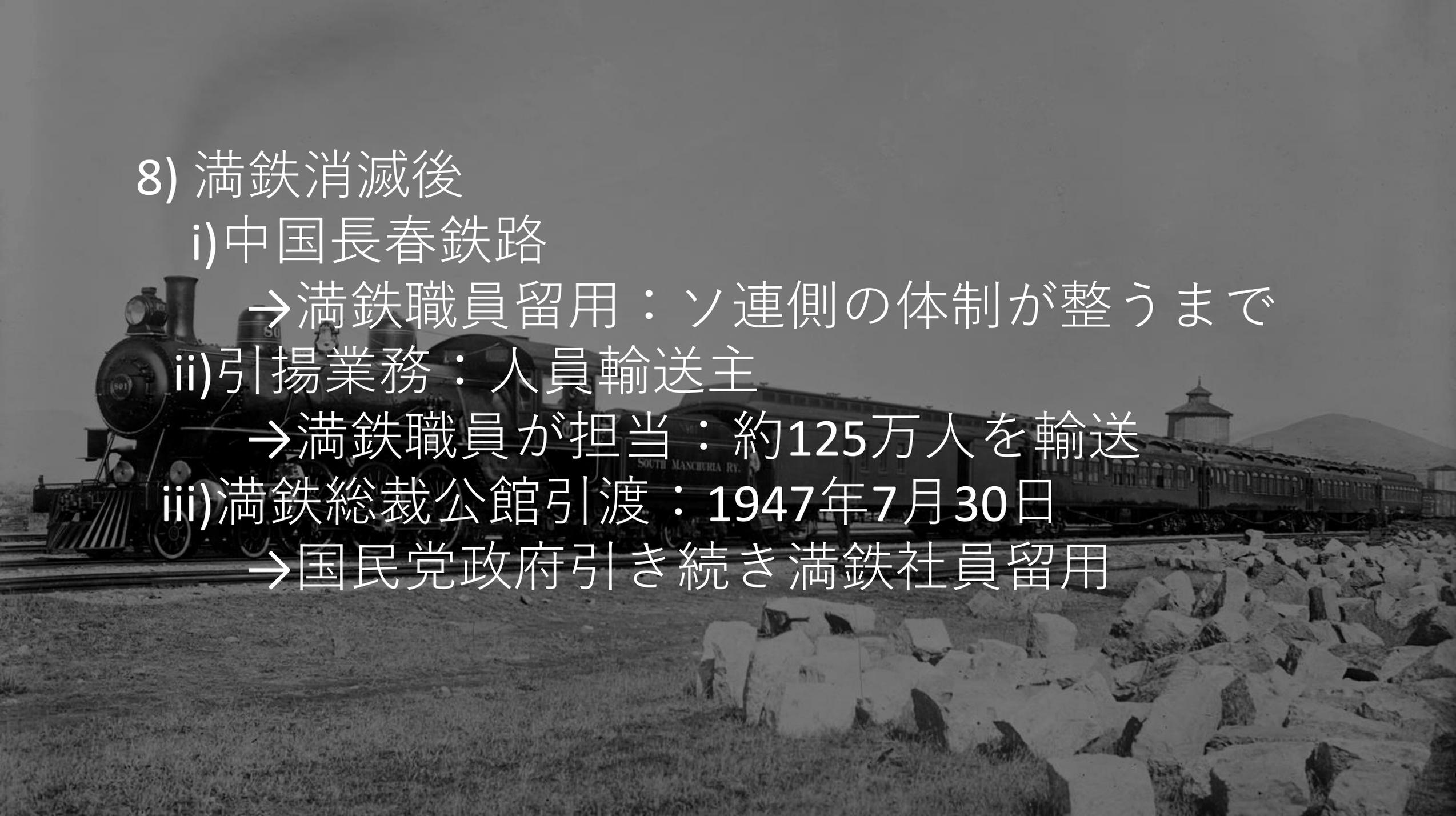
→ 満鉄職員留用：ソ連側の体制が整うまで

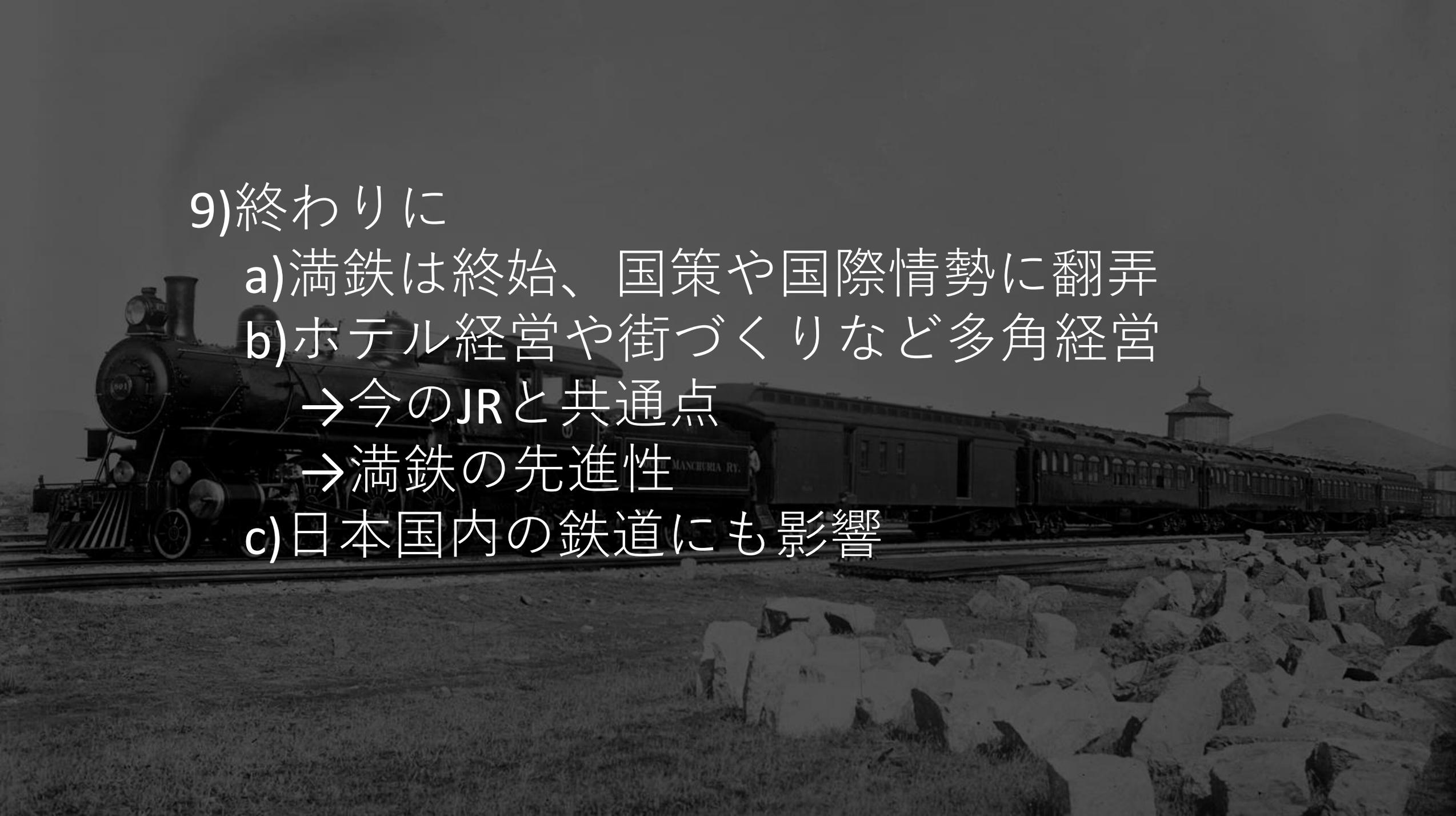
### ii) 引揚業務：人員輸送主

→ 満鉄職員が担当：約125万人を輸送

### iii) 満鉄総裁公館引渡：1947年7月30日

→ 国民党政府引き続き満鉄社員留用





9)終わりに

a)満鉄は終始、国策や国際情勢に翻弄

b)ホテル経営や街づくりなど多角経営

→今のJRと共通点

→満鉄の先進性

c)日本国内の鉄道にも影響



- 参考文献：満鉄全史「国策会社」の全貌  
講談社、加藤聖文著

画像引用：

- <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E6%BA%80%E5%B7%9E%E9%89%84%E9%81%93>
- [https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/5/52/Fushun\\_Coal\\_Mine2.JPG](https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/5/52/Fushun_Coal_Mine2.JPG)
- [https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/1/12/CNR\\_SL-751.jpg/1920px-CNR\\_SL-751.jpg](https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/thumb/1/12/CNR_SL-751.jpg/1920px-CNR_SL-751.jpg)
- [https://pds.exblog.jp/pds/1/200909/28/44/c0179844\\_23305955.jpg](https://pds.exblog.jp/pds/1/200909/28/44/c0179844_23305955.jpg)
- <https://pbs.twimg.com/media/EF1gmCyWwAEjPxz.jpg>